



西河 巧

### 「農林業の振興」について

#### 「農林業の振興」について

**問** 能勢町の基盤産業たるべき農業の現状について伺う。

**答** 本町の主要農産物の米については、作付け面積が約503ヘクタール、生産量は、約2500トン、粟については農協への出荷が約12トンの内、銀寄栗は9トンという状況である。農業者人口の推移は、平成2年の農家戸数が1300戸に対し、平成22年には、1000戸ということ、20年間で2割の減少という状況である。

**問** 農業の活性化をしていく上で、農産物の生産拡大、後継者の育成、また、農産物の消費拡大等今後の取り組みについて伺う。

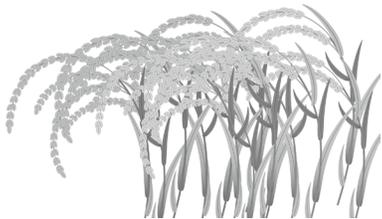
**答** 農業振興に向けて、生産量の拡大、後継者の

育成、農産物の消費拡大は、三位一体という形で取り組んでいかなければならない課題であると思

識している。

今年度は能勢栗振興会との共同開催による栗栽培技術講習会、物産センターなどと連携して冬季野菜の出荷促進を目的とした講習会の開催、黒枝豆、サツマイモ、トウモロコシといった物産センターでの作物のブランド化を推進し、生産量、消費の拡大に向けて取り組んでいくこと、後継者、あるいは新規就農者にとって魅力ある能勢の農業スタイルと

いうものを提案していきたいと考えている。



**問** 能勢町の80%が山林である。能勢町が活性化して行くうえで山林資源活用が非常に重要だと思

うが今後の取り組みについて伺う。

**答** これまで実施してきた里山再生事業の推進により、クヌギ等を用いた椎茸の原木栽培や菊炭等の特用林産物の生産に

なげて、山に人の手が入る仕組みを継続したいと考えている。

### 一般質問



木戸 俊治

#### 残土処分地の安全確保は

**問** 本年2月豊能町木代地内の残土処分地で大規模な崩落事故が発生した。当町でも国道477号沿

いの箇所があり、一部土砂崩れも見られる。下方には「北摂里山博物館構

想」の施設も点在し、大きな崩落事故も予想されるが、①監督機関、現地立会確認等対応は②災害や被害の責任の所在は③下流域からの申し入れや、府当局への要望、意見書などの提出はどうか。

**答** ①当該地は砂防指定地内にあるため、大阪府が監督指導を行っている。町職員も現地確認の立会など連携を図ってきた。

②土砂災害等の責任は、行為者にあるが、そのような事態にならないよう、大阪府と連携して必要な指導を行っていききたい。

③当該地域住民からの申し入れは本年3月にあり、

### 一、建設残土処分地における安全確保は 二、新学校の教育の内容、具体の構想は

現地の確認は行っているが府に対して意見書等の要請はしていない。

なお、今回の豊能町での崩落事故を受け、府市長会、町村長会合同で、国や府に対し、建設残土に関する法的な対応や、条例の制定について要望書を提出している。

#### 新校の具体的教育内容は

**問** 能勢新学校の開校に向けて、特色ある教育を

目指し、先進施設の視察や職員との協議がなされている。町長は、常々教育は中身が大事と言われているが、考えを伺う。

**答** 基礎的な学力は勿論必要だが、21世紀を強く生き抜き、課題解決能力を身につけるため地域一体となって子どもたちを育むことが大事である。能勢の教育を魅力化することにより、能勢で教育を受けたい子どもが出てくる狙いもある。

**問** 新学校プロジェクトチームの検討内容、特色ある教育を進めるための取り組み等現在の進捗よくについて伺う。

**答** 九つのグループに分かれ、検討を進めている。特色ある教育の推進については、確かな学力を身につけるため9年間を見通した学ぶ力を育む授業のスタンダード化と家庭学習の手引きの作成に取り組んでいる。

具体的な取り組みとして、小学校1年からの外国語活動の研究で、中学校との接続についてはワーキングチームで検討を進めている。更に能勢を愛する子どもたちの育成を目指し地域学習の研究に取り組んでいる。

知・徳・体のバランスのとれた児童・生徒の育成を目指し、9年間を同じスタンス、同じ計画の中で育てていくことが一番大切と考えている。